



南島原市国際交流員

# フランチのチャオ! 南島原 「日本の不思議なところ」



今月は、日本に住んで不思議に感じるところをご紹介します。



## ●青信号

初めて来日したときのことで。私が、横断歩道を渡る前に信号が青に変わり、「信号が緑になったよ!」と言うと日本人の友達が不思議な顔をして「ん?」と答え、「あー! 青信号だね」と返事をしました。イタリアの場合、「青信号」は「緑信号」と言い、世界中、同じ表現だと思っていましたが違いました。国によって言い方がそれぞれで面白いですね。

## ●常にプランを立てる

日本人は何もかもプランを立てるので、企画通りでなくなったり、ドタキャンされたり、何もプランがないと困ってしまいます。仕事の場合はもちろん、きちんと計画を立てた方がいいと思いますが、特にお休みの日には、プランがなくてもリラックスして行動してみませんか。例えば、好きな音楽をかけて歌ったり、踊ったりしてみたいかがですか。どうすればいいかわからない時は、イタリア人に教えてもらいましょう(笑)。

## ●正式

ぎりぎりまでノープランで最後にアレンジするのが得意なイタリア人の中で育った私は、几帳面で前もって詳しいところまで計画を立てる日本人と一緒に生活してみるとかなりの違いを感じます。何年も日本に住んで今でも驚くのが、日本人はどんな時でも正式であるところです。例えば、結婚式、開会式、入学式、卒業式、宴会、同窓会など「式」と「会」で終わる行事が日本には多いですね。このような場面では必ず正式な挨拶、正式な発表などがあります。イタリアでは入学式や卒業式はありません。日本に比べると「式」と「会」が少なく日常生活では正式になる機会が少ないので、日本の習慣に戸惑ってしまいます。

## ●義務感

仕事ではもちろん、プライベートでも約束を守って行動する日本人は素晴らしいと思います。人生で仕事は何よりも大事で義務感が強く、さすが「頑張り屋」だと思います。しかし、たまには「今日は快晴だ! 仕事を休んで海に行こうぜー」というイタリア人的な考え方で動いてみませんか。しばらく休んでから仕事に取り掛ければ、より有意義な仕事ができるかもしれませんよ。



つなごう未来へ! 島原半島世界ジオパーク



島原半島世界ジオパーク  
キャラクター「ジオくん」

# ジオパークであり 続けるための取り組み



島原半島世界ジオパーク  
キャラクター「ジオちゃん」

島原半島ジオパーク協議会 ☎0957(65)5540

## ジオサイト② 平成噴火のはじまり

今から25年前の1990年11月17日午前3時22分、気象庁雲仙岳測候所(当時)で、火山性の微動が観測され始めました。この日の午前6時ごろ、普賢岳山頂の東側2カ所所で噴煙が上がっているのが、住民によって目撃されました。午前8時には、雲仙岳測候所が深江町大野木場と仁田峠第2展望台から2本の噴煙が上昇しているのを目撃し、噴火が確認されました。これが平成噴火のはじまりです。

噴煙は、普賢岳の山頂から約600m東に位置する九十九島火口と地獄跡火口から上昇し、300mほどの高さまで噴き上がり、島原市内でも火山灰が降りました。噴火はこの日の夕方には治まり、火山性微動も午後7時ごろには停止しました。この噴火以降、島原半島はおよそ5年にわたり噴火に対峙することになるのですが、この噴火の際にどのような前兆現象があったのでしょうか。

噴火が起こる約1年前の1989年11月22~23日にかけて、島原半島の西に位置する橘湾の地下で群発地震が起こりました。その回数は徐々に増加し、翌1990年6月には島原半島中央部まで拡大しました。7月24~25日には、雲仙岳測候所で最大震度3を含む、26回の有感地震が観測されています。活動は消長を繰り返しながら継続し、噴火の1か月前に当たる10月には、火山性微動の振幅が大きくなるとともに、地震の発生場所も徐々に浅くなっていきました。しかし地上では、噴気の噴出やガスの発生といった、異常現象は確認されませんでした。私たちにとって平成噴火はまさに「突然始まった」のです。この時の噴火は、マグマからの熱によって温められた岩盤と地下水が接触して起こる「水蒸気噴火」で、昨年9月27日に起きた御嶽山の噴火と同じタイプのものでした。

火山性微動や火山性地震は、私たちが見るできない地下のマグマの動きを教えてください。粘り気の強いマグマが地下で動いたり、火山ガスなどが激しく噴出すると、地面が震え続けます。これが火山性の微動です。また、マグマは岩盤の中に入り込んで新たな通り道を作る際に、岩盤を割りながら上昇してきます。これが火山性の地震を生じさせます。

1989年11月に橘湾の地下で起きた群発地震は、マグマだまりから新しいマグマが地上に向かって動き始める準備をしていたことを意味しています。また、その翌年の6



月から続いた火山性地震の発生場所の浅所化と火山性微動の範囲の拡大は、地下のマグマやそこから噴き出したガスが、地表に向けて動き出していたことを意味しています。これが、平成噴火に至る前兆現象だったといえます。

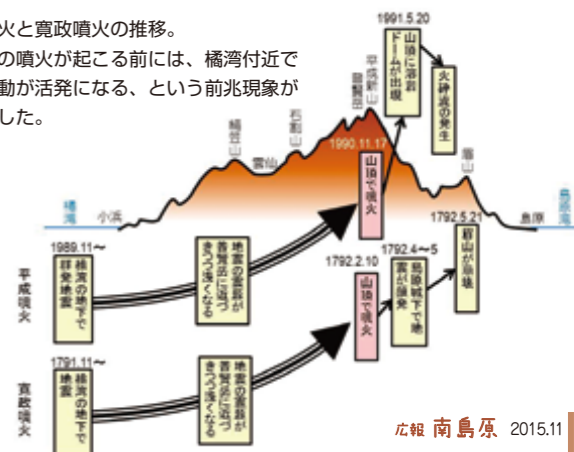
このような地震の発生場所の変化は、1792(寛政4)年に起きた寛政噴火の時にもありました。どうやら雲仙火山には、噴火が始まる前に橘湾の地下で地震が頻発するという「くせ」があるようです。しかし、橘湾の地下で地震が起きたら必ず噴火するという訳でもありません。1970年代初期や1984年には、最大震度4から5の有感地震を含む火山性の群発地震も発生しましたが、噴火には至っていません。

現在の雲仙火山は、気象庁が設定する噴火警戒レベルの「1. 活火山であることに留意」にあたり、穏やかな状態にあります。しかし、火山性地震は今も発生し続けています。噴火の予兆をとらえるために、九州大学島原地震火山観測研究センターや気象庁は、常に雲仙火山の様子を観測しています。山が平穏な今こそ、雲仙が噴火の前にどのような活動をし、どんな噴火をするのかを知ることが重要です。

平成噴火の開始から25年。これを機に、普段は忘れがちな「雲仙は活火山である」ことを、もう一度心に留めてみてはいかがでしょうか。

今回は「九州オルレ(南島原コース)」のジオパーク的な見所を紹介します。

平成噴火と寛政噴火の推移。  
これらの噴火が起こる前には、橘湾付近で地震活動が活発になる、という前兆現象がありました。



## フランチの「ヴォーノ!!イタリア料理講座」

受講生  
募集

企画振興課 ☎050(3381)5030 FAX0957(82)3086

Eメール: chiikiseisaku@city.minamishimabara.lg.jp

イタリアからの国際交流員フランチェスカのイタリア料理講座を開催します。  
簡単なイタリア語・イタリア文化を勉強しながら楽しく料理を作ってみませんか?  
お子様連れでも大丈夫です。

※「ヴォーノ」とは、イタリア語で「おいしい」という意味。

トルテッリーニ・温野菜サラダ・パネトーネ



12月15日(火) 午前10時30分~午後1時30分

☑ 有家保健センター

定 20人(先着順)

料 600円(参加人数で変動)

☑ 12月1日(火) 午後5時まで

☑ 電話、FAX、Eメールで申し込んでください。